

建物や構造物が完成するまでの 建設業・建設専門工事業の仕事について

施工管理、技能者、CAD設計等、建設専門工事業で
働くそれぞれの仕事の特徴ややりがい



建設業とは = 「土木」+「建築」

建設業は大きく分けると「土木」と「建築」の二つに分かれ、多くの技術者や技能者と呼ばれる人たちが関わっています。

現在、日本には46万社以上の建設会社があり、500万人以上の人々が建設業に携わっています。建設業にはゼネコンと呼ばれる「総合建設業」と様々な専門的工事に特化された「専門工事業」があります。



土木の仕事

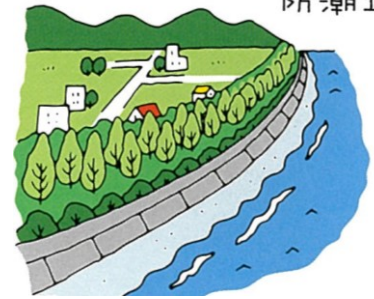
「土木の仕事」は山や森、川、海などの自然を相手に、道路やトンネル、ダム、橋など私たちの暮らしや経済活動を支える社会基盤（インフラ）をつくる仕事です。

蛇口をひねると水が出る、橋やトンネルができて移動時間が短くなった、洪水の被害を減らす等、私達の安全で便利な暮らしを支えているのは土木の仕事なんです。

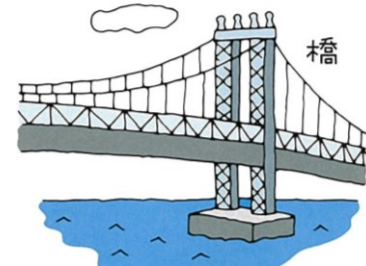
トンネル



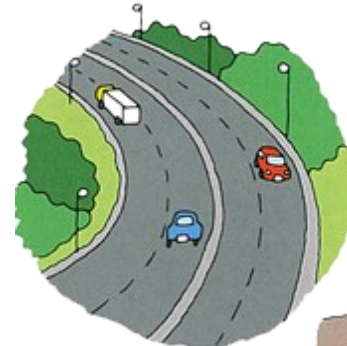
防潮堤



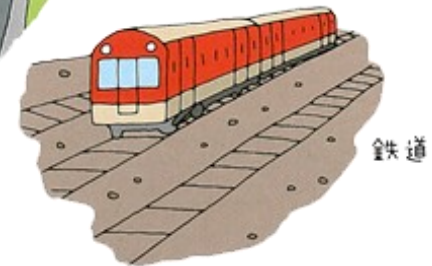
ダム



橋



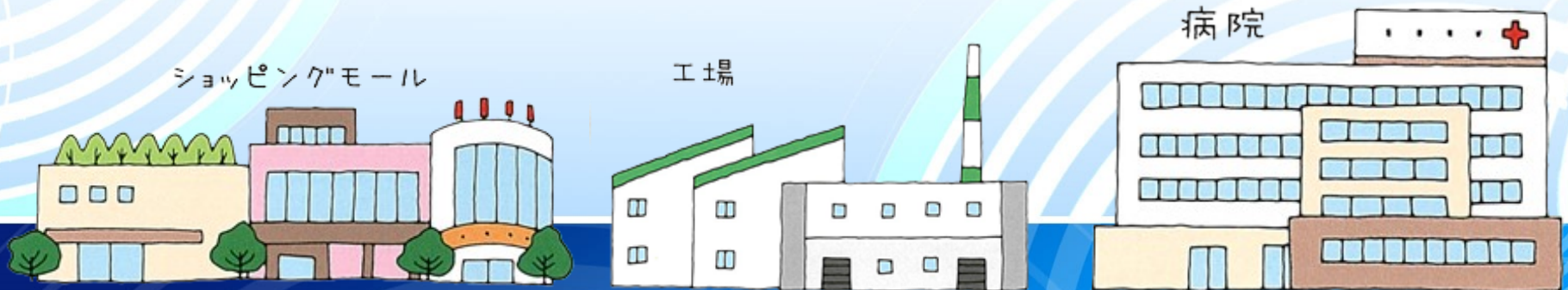
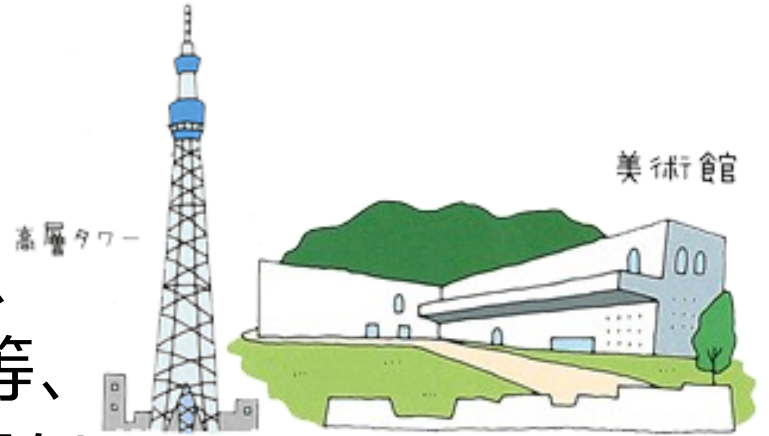
道路



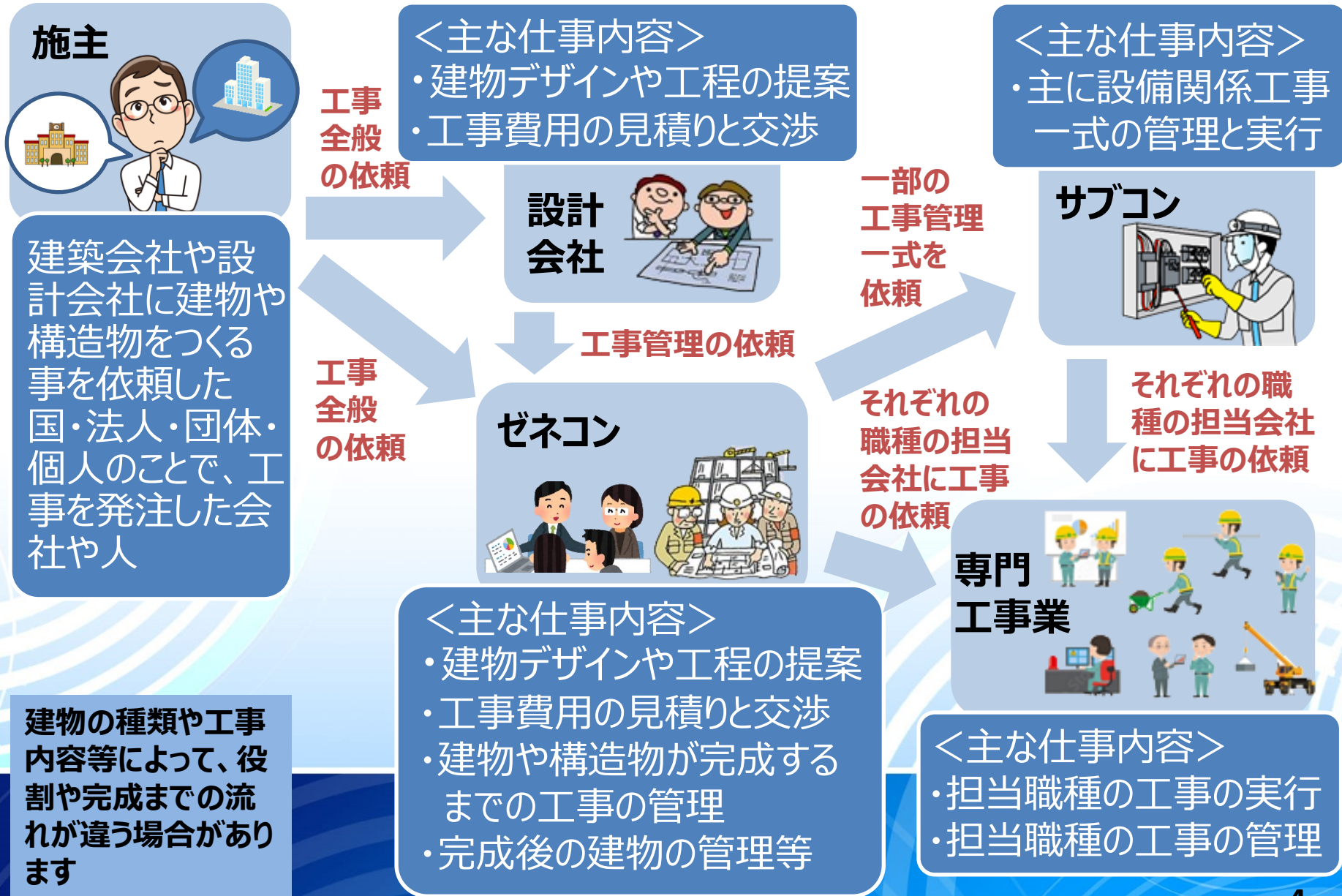
鉄道

建築の仕事

「建築の仕事」は、マンションなどの住宅をはじめとして、映画館や学校、ショッピングモール、レストラン、工場等、私達が生活したり、楽しんだり、食事をしたり、勉強をする建物をつくる仕事です。私たちが生活する上で当たり前のよう利用している建物をつくっているのは建築の仕事なんです。



建物や構造物が完成するまでのそれぞれの役割



建物や構造物が完成するまでの工事の流れ（建築）

基礎工事	躯体工事	仕上工事
地面と建物のつなぎ部分にあたる基礎を造るための工事。地盤と建物をつなぐ重要なパイプ役です。建物の重さや、地震等で、建物が沈んだり傾いてしまうことを防ぎます。	躯体という建物の主要構造部を作る骨組み工事。建物の骨格を作る工事になり非常に重要。躯体工事は、建築工事全体の工期のおよそ70%以上を占めます。	建物が完成した際に、目に見えてくる全てに関わる箇所の工事。建物の中だけではなく、外回りも含めた部分全てとなります。工事は細分化されており、様々な専門工事業が携わります。



設備工事
設備工事とは建築物で利用される設備を導入するための工事です。電気やガス、水道、衛生設備など建築物の機能面において非常に重要な工事になります。

ゼネコン

近隣説明会、地盤調査、基礎・躯体・仕上・設備工事、建物検査、官公庁への申請等、建物を建てる最初から最後までを担当

サブコン

主に設備工事一式。地下部に埋没する設備のための工事から建物の構造の中にある設備、見える部分の設備工事まで担当

専門工事業

それぞれの会社が主体とする専門工事箇所の工事を担当

工事に携わる仕事について①

専門工事業の施工管理

勤務体制	担当現場の工事作業に応じて、会社事務所と現場を必要な時間帯に勤務。また、経験を積むと複数の現場を担当することが多く、1日で何件かの現場をまわることもあります。会社によってはゼネコンの現場監督の補佐として現場に常勤する場合があります、その場合は現場のゼネコン社員と同じ勤務体制。
仕事内容	現場で工事がきちんと行われるように会社が担当する工事の管理業務。 (作業内容に応じた現場で働く技能者の調整、材料の調達、安全管理等、担当の専門工事が品質よく安全に工期厳守で行なわれるようにします。)
やりがい	現場で建物を作り上げる過程で担当の専門工事を実際に工事を行なうための仕事なので、短いスパンで完成の達成感を実感できます。
必要になる力	ゼネコンや技能者、材料業者等と深く関わるためのコミュニケーション力 先を見通して安全な工事計画を立てるための考察力や想像力 現場で作業する人に指示し行動してもらうための積極性や説明力 担当の専門工事を管理するための理解力や理解しようとする向上心
必要な能力	施工管理関連資格、CADでの図面作成やエクセル・ワード等の書類作成技能 ※技能に関しては仕事が始まってから研修や現場等で教えてもらえます
勤務地	会社事務所メインで必要な時に現場に出向く
その他	担当の専門工事が成功するかどうかのキーパーソンとなります。現場に合わせて最適な技能者の配置と工法・材料選び、作業計画を行なうために専門的な知識習得と経験の積み重ねを大切にする心構えが必要です。

工事に携わる仕事について②

専門工事業の技能者

勤務体制	担当現場の朝礼から現場の作業終了時間まで。ほぼ残業なし。 担当の専門工事により深夜のみの作業の場合もありますが、ほとんどの工事は8時～17時までになります。
仕事内容	現場で工事を実際に施工します。 (工事を行なうにあたり、天候や他の専門工事との兼ね合い等を考慮し、その日の工事を品質第一で安全に行ないます。)
やりがい	実際に工事を行なうので「ものづくり」の満足感と、完成した後にも自身が作業した箇所を明確に確認することができ達成感を強く感じることができます。
必要になる力	担当の専門工事の技能を習得するための感覚力と、できるまで何度も繰り返し作業を行なうことができる忍耐力 技能を極めるための観察力と先輩の意見を素直に受け入れることができる力 他の技能者や他の専門工事の人と協力して作業を行なう協調力
必要な能力	技能関連資格 ※技能に関しては仕事が始まってから研修や現場等で教えてもらえます
勤務地	現場メイン、担当の工事の期間のみで数日～数ヶ月
その他	担当の専門工事が成功するかどうかのキーパーソンとなります。現場の状況や気候に合わせて確かな技能力と状況判断が必要です。技能は経験によって培われるので、毎日向上心を持って丁寧に作業をこなすことが必要です。

工事に携わる仕事について③

専門工事業の補佐職種（CAD設計、積算、事務職）

勤務体制	事務所内での業務になり、会社の規定通りの勤務時間。与えられた仕事が終了すれば残業なし。会社によりますが8時半～17時半が多い。
仕事内容	現場で工事を行なう上でのフォローをする業務になります。 CAD…担当工事部分を詳しく図面化する。※専門工事業の種類によっては 施工管理者やゼネコンの仕事になります。 積算…担当工事部分の必要な材料を計算する。※CADと同じ 事務…工事の見積もりや安全書類を作成する等、会社によって様々。
やりがい	施工管理者や技能者の仕事のフォローになるので、きちんと仕事をこなせば、工期が短くなったり、工事がやりやすくなり感謝されるのでやりがいがあります。
必要になる力	担当の専門工事に対する専門的な技術の習得やワードやエクセル等のパソコン操作スキル。会社で必要な技術やスキルは教えてもらえたり講習を受講させてくれたりするので、コツコツと仕事を覚える前向きな気持ちが必要。 分からない事を先輩に聞く事ができるコミュニケーション力
必要な能力	専門的な技術やパソコン操作スキル ※就職後に仕事を通して習得
勤務地	事務所内。たまに打合せ等で他の会社に行くことがあります
その他	担当の専門工事がうまく進むためのフォロー役になります。仕事を覚えていけば担当の施工管理者や技能者が気が付かない工事の問題点等に気付き、工事を更にスムーズに進める提案ができることもあり、工事を成功させるためになくはない存在です。仕事を覚えれば色々な工夫で喜ばれる仕事です。

工事に携わる仕事について④

専門工事業の営業職種（会社により施工管理者が兼任）

勤務体制	事務所内での作業と担当で決められた現場や事務所での仕事となり、基本的には会社の規定通りの勤務時間。但し、お客さんの都合により残業あり。
仕事内容	この業界の営業や配達は、決められたゼネコンや事務所を新規工事ができる時や工事中に訪れて、担当職種のお仕事をもらったり材料を入れることが多いです。そのため、毎回きちんと仕事を行なうと共に担当職種の専門知識が深く提案力があると、次の仕事をもらえることが多く有利になります。
やりがい	会社が大きくなるためには受ける仕事を増やす必要があります。営業は会社の命運を担っている重要なお仕事なのでやりがいがあります。
必要になる力	色々な人と繋がり信頼されるコミュニケーション力 専門職種の知識をしっかりと学ぼうとする前向きな姿勢と、学んだ知識を提案へと導き、相手に伝えるプレゼンテーション力 自社だけでなく相手も納得できる仕事に対する発想力
必要な能力	専門的な技術やパソコン操作スキル ※就職後に仕事を通して習得
勤務地	事務所内と担当ゼネコンや現場事務所
その他	この業界は若い子が一生懸命頑張る姿がとても好きです。どの職種にも言える事ですが、営業は特にその時その時の持てる知識をフル活用して相手も満足できる提案を考えだし、先輩たちの助けを借りながらも達成することに意味があります。相手や先輩達の話をしっかり聞き、くじけず頑張れる姿勢があれば、気が付けば一人前になれる職種です。

建設専門工事業で働くことについて

社員数	一次会社（管理メイン・事務局職員多め）か二次会社（工事メイン・技能者多め）によって社員数はかわりますが、15名～60名規模の会社が多数。 ゼネコンよりも社員数が圧倒的に少ない分、頑張って仕事をしてれば評価されやすく役職につきやすい。
人間関係	社長や役員さんとの距離感が近く、会社全体で仕事に取り組むので人間関係の複雑さが少ない。また、仕事ができなくても見捨てず長い目で社員を育てる姿勢が強い業界なのでできることからコツコツ仕事を覚え、一生懸命まじめに仕事に取り組む姿勢があれば可愛がってもらえる傾向にある。
仕事の傾向	社員数が少ないので早い段階から仕事を任せてもらえる傾向があり、判断も担当者に多くを委ねてもらいやすい。仕事の判断に迷えば直接社長にという会社も多いので仕事にスピード感がある。また、仕事の提案もしやすく考えたことが実行されやすい。
仕事の覚え方	天候や各職種との兼ね合い等で予定通りに工事が進まないことが多く、施工管理・技能者・事務職員とも経験の積み重ねが必要。社内や現場できちんと報連相ができており、人間関係が円滑にできていれば、仕事はスムーズに進む傾向にあるので、会社の担当の職種の知識や技能を習得しながら経験を積み重ねて仕事を覚えていく方法が一番の近道。いつも仕事に前向きに取り組む姿勢が見えれば、先輩達はしっかり指導してくれます。
その他	この業界は朝に会社に集合し現場に向かう事があるので、寮や家賃補助等の一人暮らしに関する優遇が多い傾向にあります。また、地方からのきてくれる社員に対しての面倒見が良いのも特徴です。一緒にご飯を食べて和気あいあいとしてチーム力を高めたい気持ちがある会社が多いので、人間関係が苦手でも気が付けば程よく人間関係ができていく馴染みやすい業界です。

(一社) 建設専門工事業雇用推進協会 (セパ) について

セパは建設専門工事業の雇用の拡大と維持を目的とし、様々な事業を展開しています。特に当法人では、建設専門工事業の理解と関心を深めてもらうための技能体験学習やグループディスカッション、新入社員の定着のための研修やサポート業務を重視することで、業界を若い力で元気にしてもらいたいと考えています。若い力を発揮してもらえるように各会員会社の雇用環境整備や教育システムの構築にも今後は更に力を入れる予定です。みなさんの進路の1つに、建設専門工事業で働くという選択を増やしてもらえると、嬉しく思うと共に更に若い力を発揮できる環境であるように頑張っていきたいと考えています。

<新入社員定着サポート事業について>

セパでは「新入社員定着サポート事業」として、新入社員として初めて働くことで起こりうる様々な不安や戸惑いを少しでも解消するために、仕事に慣れるまでの3年間を下記の内容でサポートしています。

1. 新入社員研修の実施…業界で生き活きと働くために必要な知識を得ると共に、人間関係を円滑に行なうための訓練をしてもらいます。
2. 定着サポートセミナー…講習やグループディスカッションを通して、現時点の働く上での問題点を明確にし、新入社員同士や先輩達と仕事の在り方を学びます。
3. 技能体験学習への参加…学生に技能を教えたり、仕事について話す機会をつくり、自分の技能の上達を実感したり、コミュニケーション力を高めたりします。
4. サポート業務…新入社員との面談を通して、当法人が各会社の雇用環境整備の提案を行ない、社員として生き活き働く環境づくりのお手伝いをします。

建設業の仕事の醍醐味は、自分の関わった建物が長く残っていることと、多くの仕事人と共に協力し大きな構造物を作り上げることに尽きると思います。

また、経験や知識が未熟であっても先輩達の指導のときちんと仕事を与えてもらえ、本人次第でどんどん成長できることも魅力の一つです。昔は現場で作業を見て仕事を覚えろと言われていたものですが、今では会社できちんと本人の能力レベルに応じて社員教育等を行なわれることが多くなりました。それと共に、本人の頑張り次第で様々な現場を任されることから、頑張った分が目に見える評価に繋がり非常にやりがいのある業界です。

物を作る仕事に関わりたい、机の作業だけでなく体を動かす仕事もしたい、将来独立して働きたい等の様々な動機で多くの方が建設業界で働いています。建設業専門工事業の雇用についてご相談等がありましたら、些細なことでも結構ですのでご連絡頂けると嬉しく思います。

一般社団法人 建設専門工事業雇用推進協会

住所：〒536-0007 大阪市城東区成育1丁目3番9号 402号室

電話番号：06-6180-3260 FAX番号：06-6180-3270

担当：当法人 専務理事兼事務局長 増田 岳史

メールアドレス：info@kensetsu-koyousuishin.jp

HPアドレス：<https://kensetsu-koyousuishin.jp/>

当法人の活動
はHPをご覧
くださいね！

